

# 一 般 質 問 通 告 書

平成 27 年第 3 回定例会 No. 1

順 位	質 問 者	質 問 事 項	要 旨	答 弁 を 求 め る 者
1	町 俊 策	1 ふるさと納税の推進対策について	<p>(1) 本町のふるさと納税制度は、先行して設立されたヨロン島サンゴ礁基金と一つになっているため、分かりづらいことから、条例で名称は「ゆんぬ創生基金」とし、用途も明確に定めて、多額の寄附金が集まるよう広報活動に力を入れるなど、積極的に取り組む考えはないか。</p> <p>(2) 基金の出納事務には職員が当たる一方で、寄附金を集めるための企画・広告宣伝は、設置予定のシンクタンク（調査研究組織、頭脳集団）のメンバーを推進要員に充てる考えはないか。</p> <p>(3) 基金の用途は、①島外からの転入生をも支給対象とする奨学金、②交通費等を含む出産費用、③シンクタンクの運営費、④ユンヌフトゥバの継承に係る費用、⑤その他ゆんぬ創生に係る費用、に充てる考えはないか。</p>	町 長  町 長  町 長
		2 伝統文化の継承・活用対策について	<p>(1) 最近、方言の重要性が認識され、文化庁では地域文化の核をなすものとして、その保存・伝承を奨励している。特に、ユンヌフトゥバは全国的にも知られており、学者や研究者等の調査・研究対象になっている。現状では、この研究は個人レベルで実施されているが、教育委員会内に「ユンヌフトゥバ継承課」（仮称）と標示・掲示するなど、支援体制を整備する考えはないか。</p> <p>(2) 学芸員をさらに採用・増員し、本町独特の伝統文化を発掘するとともに、郷土教育の教材や観光資源として積極的に活用していく考えはないか。</p>	教育委員長  町 長 教育委員長
		3 シンクタンクの創設について	<p>(1) 町内には様々な分野に精通された専門家が在住し、町政の推進については、かねてから機会があるたびに種々の提言等の協力を仰いでいるところであるが、山町政が</p>	町 長

# 一 般 質 問 通 告 書

平成 2 7 年 第 3 回 定 例 会 No. 2

順 位	質 問 者	質 問 事 項	要 旨	答 弁 を 求 め る 者
			目指す「町民の知恵をいかしたゆんぬの創生」を具現化するためには、公約されたシンクタンクを早急に創設する必要があると痛感されるが、どう取り組んでいく考えであるか。	
2	林 敏 治	1 施政方針について	(1) 町長は、町民の英知を結集したまちづくりを掲げているが、少子化対策、商工業の振興対策、教育振興対策など、多くの課題解決に向けて、方向性を示す必要性があると痛感されるが、具体的対策をどう講じていく考えであるか。	町 長
		2 移住促進対策について	(1) まち・ひと・しごと創生会議の資料の中に、内閣府が行ったインターネット調査の結果が出ていて、東京在住者の4割が、地方への移住を検討している、又は今後検討したいと考えているとのことである。本町においても、移住者の受入れを推進・強化するため、総合的な環境整備を行うとともに、移住希望者向けの情報提供に努めるなど、積極的に取り組む考えはないか。	町 長
		3 定住促進対策について	(1) 国から自治体への権限移譲を推進する第5次地方分権一括法の中で、農地を宅地等に転用する際の許可権限を国から自治体に移すことなど、土地利用の特例が設けられている。これをいかして、本町においても、定住を促進するため、計画的に取り組んでいく考えはないか。	町 長
3	喜 山 康 三	1 より民主的な政策遂行の在り方について	(1) パブリック・インボルブメントを実施される考えはないか。 公共事業の計画を決定する前に、地域住民・関係者等に情報を公開した上で、広く意見を聴き、その計画に反映していく手法の総称で、これは道路事業やまちづくり	町 長

# 一 般 質 問 通 告 書

平成 2 7 年 第 3 回 定 例 会 No. 3

順 位	質 問 者	質 問 事 項	要 旨	答 弁 を 求 め る 者
			等でも多く取り入れられ、その計画決定プロセスの透明性、客観性を確保する手法として国内で定着しつつある。今まで行われた委員会制度ではなく、コンセンサスを深めたより民主的なパブリック・インボルブメントによる公共事業計画を進める考えはないか。	
		2 今後の主要な政策課題について	<p>(1) 現在、就航しているQ400は、定員が74人で1,500メートル空港対応と聞いている。与論空港は1,280メートルと短く、搭乗者数を定員より1割以上減員し運航している状況にある。安全運航の確保と本町の経済発展に空港延伸整備は最優先の政治課題と考える。与論空港延伸整備事業の推進を図る考えはないか。</p> <p>(2) 役場新庁舎建設は本町当面の課題であるが、町長はどう進める考えであるか。</p> <p>(3) 次世代育成支援策は、安定した恒久的な取組が重要であると考え。行財政環境に左右されない確固とした施策が重要と考える。町長はどのような考えであるか。</p>	町 長  町 長  町 長
		3 町財政の状況をどう捉えているか。	(1) 一般廃棄物焼却施設はヤードなど附帯施設の整備のほか、多目的運動場、し尿処理施設及び学校給食センターの整備・建て替えなど、今後多額の財政負担が見込まれる大型事業が目白押しである。優先事業及び財政計画の精査はどう進めていく考えであるか。	町 長
4	高田豊繁	1 子育て支援対策について	<p>(1) 小中学生の歯科医療費を無料化するため、積極的に取り組む考えはないか。</p> <p>(2) 島外での出産に対する現行の支援制度を充実・強化する必要があると痛感されるが、積極的に見直す考えはないか。</p>	町 長 教 育 委 員 長 町 長

# 一 般 質 問 通 告 書

平成 2 7 年 第 3 回 定 例 会 No. 4

順 位	質 問 者	質 問 事 項	要 旨	答 弁 を 求 め る 者
		2 交通弱者対策について	(1) 高齢化・福祉対策の観点から、公共的な交通機関の充実・強化が必要であると痛感されるが、町長は交通弱者対策を講じる考えはないか。	町 長
		3 安定した生活の確保について	(1) 離島の物価高を是正し、住民の安定した生活を確保するためには、貨物輸送コスト支援事業を早期に実施できるよう制度の創設が必要であると痛感されるが、町長は、群島内の市町村と一体となって要請活動等を積極的に行う考えはないか。	町 長
		4 若者定住促進計画の策定について	(1) U・Iターンする若者が安心して生活できるようにするため、住宅対策をはじめ、企業誘致、起業家の支援、子育て支援の充実対策等を骨子とする若者定住促進計画を策定するとともに、関係条例を制定し、種々の施策を早期に推進していく考えはないか。	町 長
5	麓 才 良	1 ゆんぬ創生について	(1) 自治公民館との連携をより促進し、コミュニティの充実を図ることが、町長の基本理念である「町民の英知を結集し、豊かで住みよいゆんぬ創生」の柱になるものと考えことから、自治公民館と緊密に連携したまちづくり懇談会を開催する考えはないか。  (2) 自治公民館ごとに担当職員を配置する制度を導入し、集落の課題を洗い出し・集約するとともに、施策の展開を図るためのネットワークを充実・強化する必要があると痛感されるが、町長はどう考えているか。	町 長  町 長
		2 子育て支援について	(1) 町で子育て支援員を養成し、子ども園などに配置して幼児の子育ち支援を充実していくことが、本町の優れた取組の一つでもある幼小中高一貫教育振興の要になるものと痛感されるが、町長は積極的に推進する考えはな	町 長

# 一 般 質 問 通 告 書

平成 2 7 年 第 3 回 定 例 会 No. 5

順 位	質 問 者	質 問 事 項	要 旨	答 弁 を 求 め る 者
			<p>いか。</p> <p>(2) 産婦人科医が常駐していない本町にあっては、出産支援の充実を図ることが若者の定住を促進するためには、極めて有効な対策であると痛感されるが、現行の出産支援制度を一層活用しやすく、かつ、成果も上がるよう種々見直し・拡充する考えはないか。</p>	町 長
6	福 地 元 一 郎	1 教育振興対策について	<p>(1) 町長の所信表明の中に、グローバルな人材を育成するため、IT教育の推進に努めるとあるが、具体的にどう取り組む方針であるか。</p> <p>(2) 同じく、英会話教育の推進に努めるとあるが、具体的にどう取り組む方針であるか。</p>	町 長 教 育 委 員 長
		2 観光振興対策について	<p>(1) 町長の所信表明の中に、教育観光の島づくりに努めるとあるが、町長は、教育観光を具体的にはどのように認識しているか。</p> <p>(2) ある民宿に宿泊した観光客から、門限に遅れて帰ったところ、玄関に鍵がかかっていたため、外で一夜を過ごさざるを得なかったとの苦情があった。せっかく観光客が増加しているのに、これでは昔の二の舞になりかねない。問題のある民宿に対しては、接客マナーの指導をする必要があると痛感されるが、町長は対策をどう考えているか。</p>	町 長  町 長
		3 野菜振興対策について	<p>(1) 最近、観光客の増加に伴って島内産の野菜消費も増えつつあるが、食の安心・安全を確保するためには、減農薬・無農薬による野菜づくりを推進する必要があると痛感されるが、町長は基本的な対策をどう考えているか。</p>	町 長

